

発達 10-PA 12

両親の児童期における親子関係が現在の親子関係に及ぼす影響

新谷 和代 (帝京大学)

福丸 由佳 (お茶の水女子大学)

<はじめに>

夫婦各々の、過去の親子関係が、現在の我が子との親子関係に大きな影響を及ぼしているらしいことは、これまで臨床場面では多く提起されてはいるものの、量的な分析はまだ始まったばかりである。本研究は、過去の児童期における親との関係が、現在の我が子との親子関係にどのような影響を及ぼしているのかを、調査、分析した。

<手続き>

被験者は、東京近郊に在住する、幼稚園前の2～3歳児とその両親20組(1995年7月～1996年3月調査)。父親の殆どは会社員。母親は1名を除いて専業主婦であった。

被験者の家庭を2回訪問し、母子場面、友達場面、父子場면을観察し、さらに両親に、被験児との親子関係について調査を実施し(品川1992)、さらに夫婦関係など十領域180項目のアンケートをお願いした。今回は、このアンケート調査の一部である、児童期(小学校)における自分の両親との親子関係の項目、また、現在の両親との関係の項目を取り上げ、現在の我が子との親子関係のデータ(前述)とを関連させて分析した(単相関分析)。

<結果>

① 父親との関係 夫(ここでは被験児の父)

の場合は、父親との児童期における関係や現在における関係が、現在の我が子との親子関係に影響を与えていることは、あまりないようだった。ただし、期待感や話し相手になってくれたことなど、情緒的ではないが、間接的な相互作用が、現在の我が子との親子関係を良好にしているようであった。妻(ここでは被験児の母)の場合は、比較的多くの相関が見られ、児童期に父親に多く接してもらったことが、現在の親子関係を良好にしているようであった。また、現在の父親に親しみを感ずるとき、育児も良好であるようであった。

② 母親との関係 夫の場合は、母親との児童期の関係が、現在の我が子との親子関係に多少影響を与えているようであり、かなり情緒的だが、厳しさもあるような相互作用が、現在の我が子との親子関係を良好にしているようであった。妻の場合は、かなり多くの相関が見られ、児童期に母親にやさしくされたり、また、うっとりしない程度に多く接してもらったことが、現在の親子関係を良好にしているようであった。また、現在の母親に感謝したり尊敬してること、育児の良好さも有意な正相関を示した。逆に育児の悩みを打ち明けたり、話すとはっとすることが、現在の育児の良好さと有意な負相関を示した。(表参照)

(その他の表などの資料は、当日配布)

母親との児童期における関係や現在の関係が、現在の我が子との親子関係に及ぼす影響 / 妻の場合

		現在の我が子との親子関係										
		不満	非難	厳格	期待	干渉	心配	溺愛	盲従	矛盾	夫婦の不一致	
過去の親子関係	優しくされた											
	望みをかなえてくれた											
	厳しかった											
	罰を受けた											
	期待されていた											
	話し相手になってくれた											
現在の親子関係	遊んでくれた	-0.49 *										
	うっとりしかった											
	かまってほしかった											
現在の関係	現在の感謝の気持ち											
	現在の尊敬の気持ち											
	現在の親しみの気持ち											
	育児の悩みを打ち明ける											
	話すとはっとする											